

篠崎 颯将 さん

Sousuke Shinozaki

(総合学術研究科

生命システム科学専攻2024年度修了)

株式会社ファンケル

長崎県立長崎南高等学校卒業



Q今の仕事について教えてください

サプリメント及び化粧品メーカーである株式会社ファンケルで主に基礎研究に携わっています。入社して半年間の研修を受けた後、現在は総合研究所 基盤技術研究センター 皮膚科学第一グループで美白などの研究に従事しています。学生時代に研究室で細胞培養やPCR、免疫染色等の実験技術を身につけましたが、就職後も大学研究室で培った技術は活かされており、企業理念でもある世の中の『不』の解消を目標に日々研究に励んでいます。

Q学生時代はどのように過ごしましたか？

かなりのヤンチャ学生として過ごしたと自認しております。ここでは書けないようなことをやらかしては、その度に先生達には迷惑をかけていました。ただ、その時の経験やそこで培った「周りを巻き込む力」は大学での研究や就職後の仕事でも活かされているなど感じる時が多々あります。こうした経験から、学生時代には(あまり周りに迷惑をかけないレベルで)色んなことをやってみることをお勧めします。海外旅行、恋愛、課外活動・・・、失敗してもすぐに立ち上げられる環境は大学しかありませんので、貴重な時間を有意義に過ごしてください。

Qなぜ、細胞機能制御学(齋藤)研究室を選んだのですか？

先生の人柄もあるのですが、研究内容の面白さが一番でした。細胞機能制御学研究室では「がん」「老化」「皮膚」の3つのチームに分かれて研究が進められており、これらのテーマを同時に学べる研究室は多くありません。僕自身は配属時に何をやりたいのかまだ明確に決まっていませんでしたが、研究室で取り組まれている複数のテーマから様々な刺激を受けることは自分自身の成長につながることに加え、将来的に必ず役に立つと考え、齋藤研究室を選択しました。

Q他の県から広島に来て、どうでしたか？広島から横浜に来てどうですか？

芸備線に揺られ、初めて庄原キャンパスに来た時のことは今でも忘れません。見渡す限り山でまさかここで6年間も学生生活を過ごす事になるとは夢にも思いませんでした。また、当時の庄原には大学生らしい娯楽ができる場所がなく絶望しましたね(笑)。ただ、その分マイカーで日本一周、グランピング等のレジャー、きれいな星の写真撮影等、都会の学生が憧れることは堪能できたことに加え、研究にはしっかり打ち込めたなと思います。また卒業式後そのまま横浜に行った僕ですが、これもまた忘れることができません。見渡す限りのビルに圧倒されました(笑)。横浜に来て1年たち(その間、3か月ほど銀座で働くことも経験)、娯楽には満ち足りた生活に満足する一方で、空気と星がきれいだった庄原がどこか懐かしく感じ、良かったなと思うことが多々あります。

Q県立広島大学(庄原キャンパス)で学んで良かったな、と感じているところは？

広い視野を持つ癖をつけたところです。特に庄原キャンパスは特徴として、生命科学と環境科学両方の分野を学べる点があります。加えて、庄原で流れるゆったりとした時間の中だからこそ、多くのこと(前述のヤンチャ含む)に挑戦することができます。僕はこうした経験を通じて視野を広く持つことの重要性及びその力を培いましたが、この力は社会人になってものすごく重宝しており、庄原キャンパスで学べて良かったなと感じます。

Q最後にひとこと

大学に入学する前も入学した後もいろいろと不安だったり不満だったり、いろいろな『不』がありましたが、いざ大学院まで進み、修了してみるとなんだか楽しく充実した日々だったなと感じます。これを読んでくれた人が、私と同じように県立広島大学で充実した学生生活を過ごしてくれると嬉しいなと思います。

